

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- (現4年) 興味関心をもって調べようとする児童が増えた。
- (現5年) 目標値には届かなかったが、基礎を活用する問題は目標値を超えた。
- (現6年) 基礎を活用する問題が昨年度より、12.7ポイント上がった。

(2) 課題

- (現4年) 市の様子の領域において、地図記号や、地図を読み取る力が定着していない。
- (現5年) 資料の読み取りは概ねできているが、ダムの働きや仕組みが理解できていない。
- (現6年) 読み取りの体験を増やしたが、資料を読み取ったり活用したりする力が身に付いていない。体験を増やすだけでなく、資料の読み取り方から指導していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	問題全体の校内正答率は、前年度よりも、2.1ポイント下がった。目標値と比べると、1.4ポイント低い。目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【市の様子】 【買い物調べ】 【安全なくらし-火事】 【市の様子の移り変わり】 特に「市の様子」の領域は、ほとんどの問題で目標値を下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも、8.1ポイント上がった。目標値と比べても、0.5ポイント高い。目標値より正答率が高かった領域は以下の通りである。 【地域や市の様子】 【生産や販売】 目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【安全を守る働き】 【市の様子の移り変わり】	問題全体の校内正答率は、前年度よりも0.5ポイント下がった。各問題のほとんどの項目で、目標値を下回っている。基礎的な問題の正答率が大きく下回った内容は、以下の通り。 【地域や市の様子】 地図記号、地図の読み取り 【生産・販売】 買い物調べの表の読み取り 【安全な暮らし】 警察(交番のはたらき) 【市の様子の移り変わり】 年表の読み取り 【くらしの移り変わり】 調べ学習の方法、道具の役割
第5学年	問題全体の校内正答率は、第4学年時よりも、6.3ポイント下がった。目標値と比べると、1.5ポイント低い。目標値より正答率が低かった領域は以下の通りである。 【都道府県の様子】 【くらしをささえる水】 【自然災害からくらしを守る】 特に「くらしをささえる水」の領域は、ほとんどの問題で目標値を下回っている。	問題全体の校内正答率は、前年度よりも15.6ポイント下がった。目標値と比べても、10.1ポイント低い。目標値より5ポイント以上正答率が低かった領域は以下の通りである。 【都道府県の様子】 【生活環境を支える活動】 【自然災害からくらしを守る活動】 【伝統や文化、先人の働き】 【特色ある地域の様子】	問題全体の校内正答率は、前年度よりも4.8ポイント下がった。各問題のほとんどの項目で、目標値を下回っている。基礎的な問題の正答率が大きく下回った内容は、以下の通り。 【くらしを支える水】 グラフの読み取り 【ごみの処理と利用】 【自然災害(地震)】 【特色ある地域の様子】 複数の資料からの読み取り 【先人のはたらき】 年表の読み取り

第6学年	問題全体の校内正答率は、第5学年時よりも11.5ポイント上がった。目標値と比べると、6ポイント低い。目標値より5ポイント以上正答率が低かった領域は以下の通りである。 【世界の中の国土】 【日本の国土と人々の暮らし】 【日本の水産業】 【自動車をつくる工業】 【日本の工業生産】 【情報を生かした産業】	問題全体の校内正答率は、前年度よりも4.2ポイント下がった。目標値と比べても、11.5ポイント低い。目標値より5ポイント以上正答率が低かった領域は以下の通りである。 【世界の中の国土】 【日本の水産業】 【日本の食料生産】 【自動車をつくる工業】 【日本の工業生産】 【情報を生かした産業】 【自然環境と国民生活】	問題全体の校内正答率は、前年度よりも5.4ポイント下がった。各問題のほとんどの項目で、目標値を下回っている。基礎的な問題の正答率が大きく下回った内容は、以下の通り。 【世界の中の国土】 赤道の位置、雨温図の読み取り、北方領土 【日本の食料生産】 品種改良、複数の資料から読み取り 【日本の工業生産】、 自動車の生産工程、製品開発の目的、地図の読み取り、グラフの読み取り 【情報を生かした産業】 【自然環境と国民生活】 表の読み取り、複数の資料から読み取ったことの関連付け
------	--	---	---

(2) 分析（観点別）

- ・全体的に記述問題に苦手意識があることが分かった。理由として、以下の点が考えられる。
 - a 問題や資料の意味を理解することができていない。
 - b 自分の考えを書く練習が不十分である。
 - c 海洋や海流など社会科でよく扱う語句の定着が不十分である。
- ・与えられた課題は一生懸命取り組むが、自分で課題を設定して取り組む態度が十分ではない。

① 中学年（4年）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
◎交通事故の現場で行う仕事や、税金についての知識が定着している。 △資料を読み取って判断し、回答を選択する力が十分でない。 △地図記号等の基礎的な知識が定着していない。	◎写真や資料をもとに判断したり、表現したりすることができている。 △複数の資料を基に考える力が十分でない。	◎興味・関心をもって調べることができている。 △記述問題に対して、無回答で終わらせている児童が一定数いる。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
5年 ◎先人の働きや、特色ある地域の様子の基礎的な知識が定着している。 △くらしをささえる水や、自然災害の基礎的な知識が十分ではない。 6年 ◎日本の工業生産や自然環境の基礎的な知識が定着している。 △世界の国土や日本の国土、食料生産や情報の基礎的な知識の定着が十分ではない。	5年 ◎資料を読み取り判断し、解答を選択することができている。 △資料から読み取ったことを、文章でまとめ、表現する力が十分ではない。 6年 ◎写真や図を見て、気付きや感想をもち、他者に伝えることができる。 △資料から読み取ったことを、文章でまとめ、表現する力が十分ではない。	5年 ◎学習効果測定の結果が目標値を超えており、主体的に学習に取り組む態度が育っていると考えられる。 △記述問題に対して、無回答で終わらせている児童が一定数いる。 6年 ◎調べ学習にすすんで取り組むことができている。 △記述問題に対して、無回答で終わらせている児童が一定数いる。 △自分で課題を設定し、解決しようとしていない。

3 授業改善のポイント（観点別）

- ・資料や図、考えたことや調べたことをもとに文章で表現する時間を設ける。
- ・自分で問いを見出し、問いをもとに問題解決的な学習の充実を図る。またその際、解決する時間を設ける。
→与えられるより、自己選択した方が意欲をもって取り組むことができ、知識・技能や思考・判断・表現の向上につながる。

（1）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・授業のはじめにフラッシュカードなどを使い、5分間確認をするなど、地図記号等の知識を定着させるための活動を増やし、基礎的な学力を向上させる。	・1つの資料のみ読み取るのではなく、複数の資料から比べたり、まとめたりする活動を増やす。	・分からない問題に直面した際に、諦めずに粘り強く考えることができるよう、自分たちの生活にどのように関わっているかを考えさせ、学習のまとめを書かせたり発表させたりする。 ・問題解決的な授業を実現させる。

（2）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図や資料を活用した活動を増やし、文章を書いたり説明したりする際の語句を増やす。 ・様々な語句の定着に向け、前学年の内容を生かした授業展開を考える。	・資料から読み取って終わりとするのではなく、資料や図、考えたことや調べたことをもとに文章で表現する時間を設ける。	・教師が課題を与える授業から、こどもの問いが課題になる授業へ移行していき、「調べたい。」と思えるような授業展開の工夫を図る。